

議長定例記者会見の概要 (11月臨時会)

日 時：令和4年11月2日(水)
10時29分～10時43分

場 所：議長応接室



【11月臨時会を終えての議長所感】

(中野議長)

お集まりいただきありがとうございます。

今回の臨時会は令和4年台風第14号災害対策、原油価格・物価高騰対策、G7宮崎農業大臣会合開催準備などの補正予算を審議するということで開催され、総額254億円余の補正予算を原案どおり可決しました。これらの予算が速やかに執行され、対策が履行されることを願っています。

我々議会としても、これらの各事業は県民生活に直結する大変重要なものですので、原案どおり可決されてよかったなと思っています。

【質疑応答】

(MRT)

11月定例会を間近に控えている中で、今回、臨時会を開いて補正予算が速やかに可決されたことの意義を教えてください。

(中野議長)

一義的には、各種対策について、非常に緊急に対応する必要があるということで、臨時会を開きました。

議会を開会せずに対応することも、出来ないことではありません。しかし、私個人としては、議会の存在価値を踏まえ、議会制民主主義とは何かということを考えれば、可能な限り臨時会を開いて審議の場をセッティングしてもらい、それに議会が真摯に向き合って対応していくことが一番だと思っています。

そういう意味で、県執行部としても、臨時会を開いて対応することを決められたのではないのでしょうか。臨時会を開いて対応するかしないかは、知事の判断ですからね。

私は、臨時会を開いて対応することでよかったと考えています。

(MRT)

知事も、この臨時会にあたり、平成17年に甚大な被害をもたらした台風第14号の際と比較して、対策の予算措置は1か月ほど早いということをおっしゃっていました。議長として、そのような面での評価はありますか。

(中野議長)

今回の台風第14号については、私も何度か被災現場を視察しました。防災担当大臣や総務大臣が相次いで来県して現場を視察され、また、知事も可能な限り現場を回られていました。平成17年の台風第14号に比べ、台風被害そのものは幾分小さかったかもしれませんが、知事が積極的に現場を視察され、復旧を急がなければならないという思いに至ったのだと思います。

未だに生活が元に戻っていない地域もあります。特に、県北の山間部を中心に被害が非常に多く発生しました。国道・県道・市町村道の被害を含め、そのほか様々な災害により、厳しい生活を余儀なくされている方々がいます。

今回の補正予算で十分かどうかについては、まだわかりませんが、可決しましたので、冒頭に申し上げましたとおり、これらが速やかに執行されることを願っています。

(MRT)

本日の委員長報告でも、県独自の支援策というポイントを評価する報告がありました。このことについて、どのように考えていらっしゃいますか。

(中野議長)

総務政策常任委員長も、「初めて」という言葉を強調して報告をしていました。今までにないことを積極的に行うということは、それが効果的であれば、いいことだと思っています。県単事業という形になるのだと思いますが、財源が確保できれば、こういうものは積極的にどんどんやってほしいですね。

災害復旧事業は、国からの財源であれば、災害査定などがあるので、実態としては時間がかかります。今回の商工建設常任委員会でも、対応を急いでほしいという委員の質疑に対して、「災害査定により3年以内に」という答弁があったように、災害査定があると3年スパンで事業を考えてしまいます。

それが県単事業となれば、速やかにできると思います。商工業や農林水産業など、その他各種産業に関連するものもありますが、速やかに執行されることがいいと考えていますので、よく決断いただいたと思っています。

(二見副議長)

今回の台風災害により、事業者の家屋や機材など様々な被害があったということは、いろいろな商工団体などから報告がありました。それらを受け、県でも対応をしなければならぬということで、財源を確保して出来たことだと思います。

一方、そのような団体に所属してない方々で、コロナ禍の中で、非常に経営的ダメージを受けてるところも多くあります。事業を続けてもらわなければ、今後の宮崎県の経済は成り立たないという危機感が、県執行部としてもあったのだろうと思います。時間がたてばたつほど事業再興が難しくなりますので、早めに措置したいという思いもあったのかなと感じました。

委員からも、この事業を通して、県内の中小企業を広くしっかりとサポートしていくようにという、指摘・意見がありました。

(宮崎日日新聞)

JR日南線は盛土の崩壊で運休が続いています。来年春に復旧予定という報道はされていますが、他県に目を向けると、災害により復旧が見通せない路線もあります。

宮崎県でもまた同様の災害が発生して被害を受ければ、いつ路線が復旧するのかという不安もあるかと思います。

今後、県議会として、早期復旧や路線維持について、JRへのアプローチなど、どのような姿勢で臨んでいくのか伺います。

(中野議長)

JRについては、今回、日南線と吉都線が被害を受けました。私は吉都線、副議長は日南線について、両区間に分けて復旧の要望をしました。

吉都線については、観光特急「ななつぼし」が通るということも、関係していたのかもしれませんが。我々は、この観光特急が吉都線を初めて通ることに期待していましたので、不通のままであれば大変だと思っていましたが、JRも同じ考えであったようです。また、復旧工事については、県が管理する河川でも工事の手続が必要だったらしいのですが、早急に手続をしてくれたということで、速やかに工事が進みました。このようなこともあり、早めに復旧しましたので、大変喜んでおります。

一方、日南線については、被災現場である山の写真を見たところ、かなりの被害が出ています。この被害が理由となり、復旧工事に着手しないということになれば大変だと思っていました。

しかし、JRが復旧工事を行うという結論を出しましたので、非常に安心をしています。どのくらい期間がかかるのかが少し心配ですが、なるべく工事を急いでもらい、日南～志布志間が早期に復旧するよう願っています。

肥薩線は、2年前の災害により、未だに不通が続いています。復旧工事が出来ない判断されると、存続のことにも影響が出るかもしれませんし、非常に困ります。

本県では、第三セクターだった高千穂鉄道が、平成17年の台風第14号による被害で廃線という結果になったわけです。今回も、あのようなことにならないよう願っていましたが、復旧工事を行うこととなり、非常に安堵しています。

今後は、この復旧工事を急いでほしいという気持ちでいっぱいです。